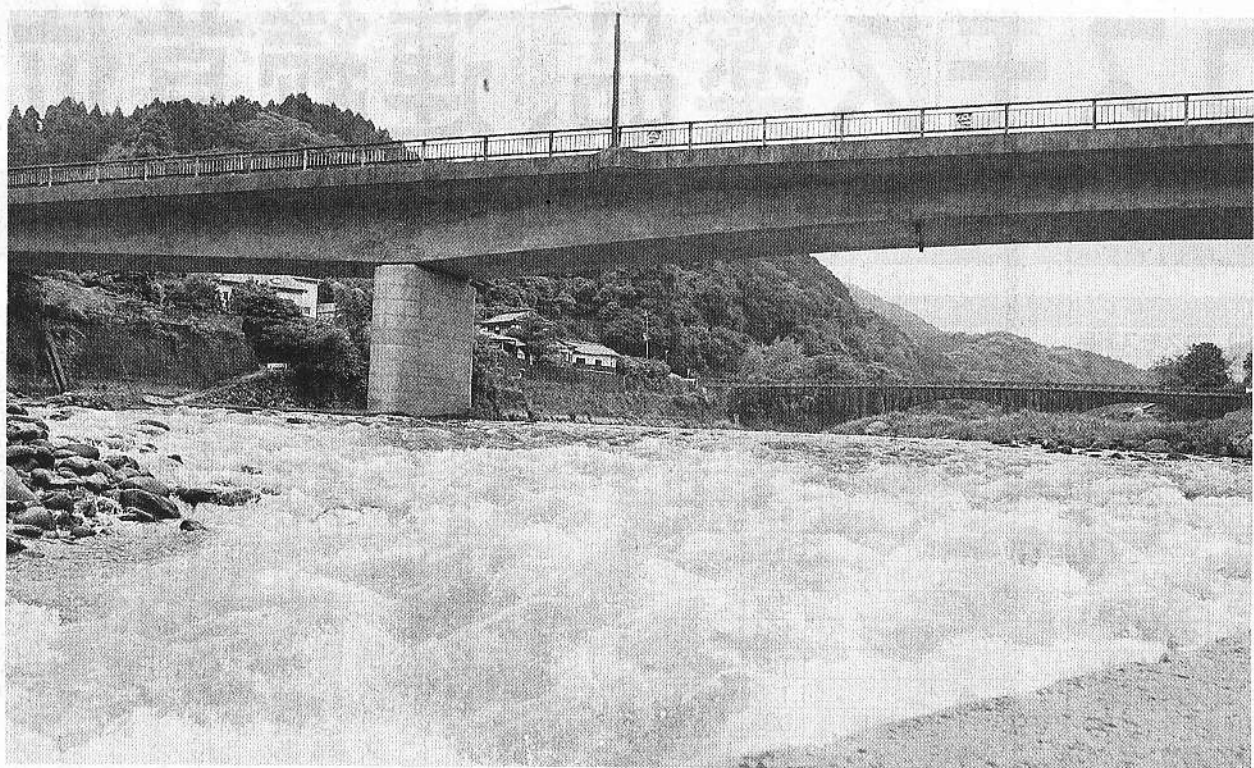
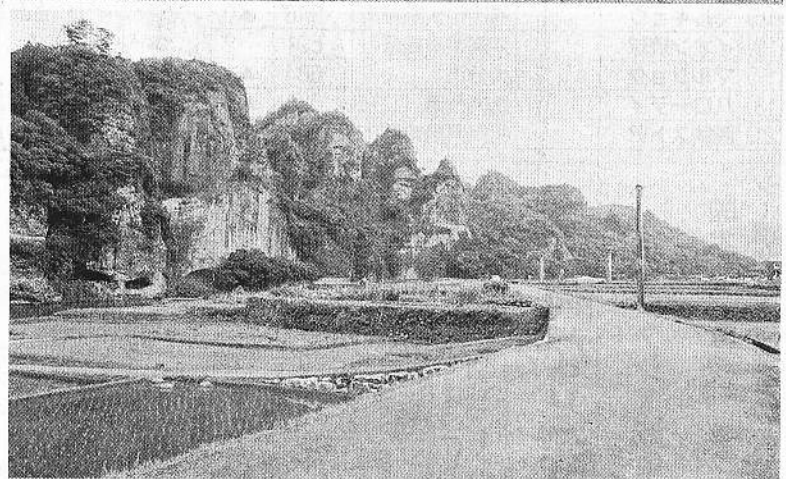


犬走り橋から見た禅海橋(手前)と羅漢寺橋(奥)



青の洞門が貫く競秀峰がそびえる



※白抜き文字の「青の洞門」は自然歩道のポイント名

# あるこ!

## 九州自然歩道の旅 ②⑥

福島 優

前回(9月16日付)は、全長約3千キロの「九州自然歩道」で、大分県の大平山から青の洞門までの歩き旅でした。今月は「ユースホステル山国屋」(同県中津市本耶馬溪町)へと歩を進めます。

## 青の洞門—「山国屋」

# 切り立つ岩壁、急流の川

青の洞門入り口にある「洞門パティオ」で腹こしらえをし、再び歩き始めます。青の洞門は、観光名所の岩壁「競秀峰」の裾にあるトンネル。江戸時代に諸国遍歴の途中に訪れた禅海和尚が、山国川に面した断崖絶壁沿いの「鎖渡し」の道で、足を滑らせて落命する人々を見て、洞門の掘削を決心。石工たちとともにノミと鍬だけを使い、約30年かけて明和元(1764)年に完成させたものです。全長は342段、うちトンネル部分は342段、うちトンネル部分

は144段あります。その後の改修などで姿はずいぶん変わってしまいましたが、所々にノミの跡が残っていて、当時の面影を感じることができます。九州自然歩道は、青の洞門内を通らず、山国川の対岸を通っています。川向こうに見える競秀峰は切り立っていて、日本とは思えない風景が広がっています。10分ほど歩くと「レストハウス洞門」に到着。近くに橋があり、たもとで遊ぶ子どもたちも見られるのかな場所です。

低価格で泊ってもらいました。夕食のときは、おかみさんとワイワイと話ができて、楽しい「宿場」でした。また泊まりたいと思います。

今回は、青の洞門からユースホステル山国屋までの約5キロ、2時間の旅でした。次回は日本三大五百羅漢の一つで、約3700体もの石仏がある羅漢寺に向かいます。

(九州自然歩道フォーラム会員 福岡市)

■毎月第3水曜掲載

す。ここでは橋は渡らず、しばらく進んでから対岸へ。禅海和尚にちなんで命名された立派な「禅海橋」を渡ると思いきや、その下を通る沈下橋「犬走り橋」を渡るのが九州自然歩道。こちらの橋は目の前を勢いよく流れる川を見ることができ、歩きながらその体験だといえるでしょう。禅海橋の先に見える大正9(1920)年築造の「羅漢寺橋」、そして後方にそびえる競秀峰の風景は圧巻です。一日中いたいくらいの気持ちでした。

犬走り橋を渡り、きれいな舗装路に入ったところで目の前に見える扉に囲まれた大きな建物が「ユースホステル山国屋」です。もともとは「山国屋」として明治初年に建てられた純和風の旅館です。昭和天皇が食事された部屋や、ノーベル賞作家の川端康成(1899~1972)、版画家で画家の橋口五葉(1881~1921)など、多くの著名人が泊まった部屋が残っているそうです。本当に昔ながらの旅館ですが、ユースホステルとして登録されており、